日刊（土・日・祝日除く） ©産業新聞社2015年

業新聞
pan Metal Bulletin

2015年（平成27年）
7月1日（水）
第18772号
Since 1936

[illegible]
安全品質と環境性能でつくる本物の安心です。
■厚生労働省の安全基準をクリア！
■国土交通省のNETISに登録済み！
[illegible]
鋼管の未来を追求する——
大和鋼管工業株式会社
http://www.daiwast.co.jp
東京TEL03-5283-7031 大阪TEL06-6448-5205
軽量化・省資源でやさしい
使われている成分がやさしい
働く人にやさしい

鉄スクラップ事業で業務提携

共栄・シマブン・扶和メタル

共栄（本社＝神戸市、郡義信社長）とシマブンコーポレーション（本社＝神戸市、木谷謙介社長）、扶和メタル（本社＝大阪市、黒川友二社長）の関西地区鉄スクラップ加工・販売大手3社は6月29日、鉄スクラップ事業における業務提携契約を締結した。中長期的に縮小均衡傾向が進むと見られる鉄スクラップ市場で、全国各地の営業拠点やヤードを相互に有効利用することなどにより、「取引先のニーズに対応して顧客満足度を高める」（木谷社長）とともに、コスト競争力の強化を図ることが狙い。「鉄スクラップ業界の活性化や鉄鋼業界の発展にも寄与できれば」（同）としている。

売上1600億円、扱い400万トン

29日にシマブン本社ビルで合同記者会見を開催した。業務提携する3社の拠点数は全国37カ所で、関東地区から九州まで各地で営業ネットワークを有しており、3社を合計した年間売上高は約1600億円、鉄スクラップ取扱量は約400万トンと大規模な連携になる。

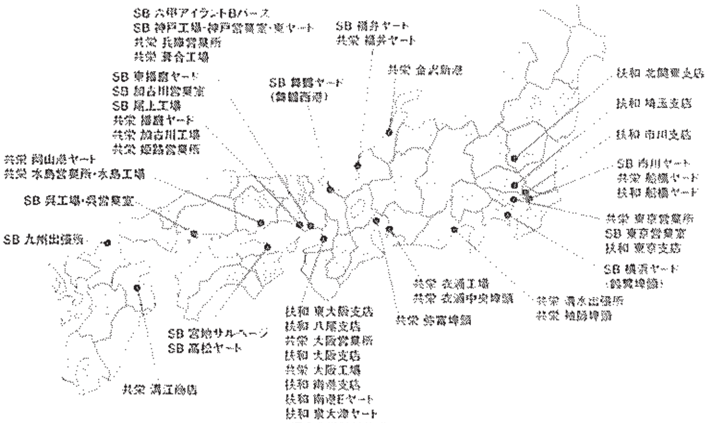
3社による提携では国内鉄鋼メーカーを中心とした需要家からの品質や数量、納期などニーズに対応するための鉄スクラップ供給体制を構築する方針。3社のスケールメリットを強みに、高炉・電炉メーカーへの安定供給を目指す。

3社が持つ全国37カ所の拠点のうち、22カ所については船積み出荷を可能としており、全国にある各社の拠点を有効活用してメーカーへ供給することで、輸送費などコスト競争力の強化も図る。

将来的に国内鉄スクラップ需要が減少した際の対応策として、3社間での鉄スクラップ輸出のスキーム作りも進めるとしているが、「まずは国内で地道にコスト競争力を高めていく。最終的に海外メーカーと戦えるだけの競争力を確保したい」（同）という。

当面は3社のみの業務提携とし、3社間で常設会議などを設定して提携効果の拡大等を目指すほか、今後は加工設備の共同利用や資材の共同購入など順次、提携可能な領域を検討していく。

大手3社の連携について「価値観を共有している3社。また、各社とも高炉メーカーとの取引もあって契約概念も強い。安定供給に寄与できる」（黒川社長）とともに、「1社単独では生き残れない時代になる可能性もある。これまでも信頼関係のあった3社連携の第1弾として手を打つ」（郡社長）ほか、「深刻な危機感を持った3社が集まったという認識。需要家や仕入先などの顧客満足度の向上を目指すとともに、取引先に安心感を与えることができれば」（木谷社長）とした。（4面に解説）


SB 六甲アイランドBバース
SB 神戸工場・神戸営業室・東ヤード
共栄 兵庫営業所
共栄 摂合工場
SB 福井ヤード
共栄 福井ヤード
共栄 金沢新港
SB 東播磨ヤード
SB 加古川営業室
SB 尾上工場
共栄 播磨ヤード
共栄 加古川工場
共栄 姫路営業所
SB 舞鶴ヤード
（舞鶴西港）
共栄 岡山港ヤード
共栄 水島営業所・水島工場
SB 呉工場・呉営業室
SB 九州出張所
SB 宮崎サルベージ
SB 高松ヤード
共栄 溝江商店
扶和 東大阪支店
扶和 八尾支店
共栄 大阪営業所
扶和 大阪支店
共栄 大阪工場
扶和 南港支店
扶和 南港Eヤード
扶和 泉大津ヤード
（堺泉北港助松埠頭）
共栄 衣浦工場
共栄 衣浦中央埠頭
共栄 弥富埠頭
共栄 清水出張所
共栄 袖師埠頭
扶和 北関東支店
扶和 埼玉支店
扶和 市川支店
SB 市川ヤード
共栄 船橋ヤード
扶和 船橋ヤード
共栄 東京営業所
SB 東京営業室
扶和 東京支店
SB 横浜ヤード
（鈴繁埠頭）

※SB＝シマブンコーポレーション

[illegible]グループ
ZAM® 在庫
1）「ZAM」は、日新製鋼株式会社の登録商標です
2）「ZAM」は、日新製鋼株式会社が開発した溶融亜鉛Znとアルミニウム Al・マグネシウムMg合金めっき鋼板の商品名です。
麻布成形株式会社
ISO9001/14001 認証取得
TEL 047-353-9100
http://www.az-azabu.com

5月末

薄板3品在庫431万トン

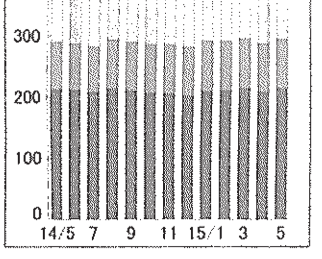
メーカー減産も一転増

5月末の国内向け薄板3品在庫（メーカー・問屋・全国コイルセンター工業組合の合計、速報値）は前月比1・9%、8万2000トン増の431万トンになった。4－5月の高炉メーカーの国内向け薄板生産は、前年同期に比べ15%程度減少しているが、自動車・建築など主力分野での需要に力強さはなく、ゴールデンウイークを挟んだ需要家との稼働日の相違という季節要因も加わり、在庫は再び増加に転じ、一進一退の展開が続く。

新日鉄住金では「在庫量は依然として危機的な水準。6月以降、需要は建築を中心に緩やかに回復に向かうとみているが、減産・在庫調整を続け、8月中の調整完了を目指したい」（薄板営業部）と話す。

在庫内訳はメーカーが1・4%増の195万8000トン、問屋が3・2%増の89万8000トン、コイルセンターが1・8%増の145万4000トン。品種別は熱延鋼板が

薄板3品在庫の推移
（国内向け、メーカー・問屋・全国CC工組の合計）



永岡専務が社長に昇格

永岡鋼業

線材二次製品メーカーの永岡鋼業（山口県光市）は30日、定時株主総会ならびに取締役会を開き、同日付で永岡栄之社長